

(熊本県立菊池農業高等) 学校 令和 7 年度 (2 0 2 5 年度) 学校評価表

1 学校教育目標
『生徒が輝き、地域をきらめかせる菊農教育の創造と実践』 教育スローガン 『農(のう)に学び(まなび)、拓く(ひらく)』 「熊本の心」を基本理念とし、夢の懸け橋教育プラン、県立高等学校における教育指導の重点、学校安全・安心推進課取組の方向、体育保健課取組の方向、人権教育の推進に当たって、特別支援教育取組の方向、社会教育課取組の方向などを指針とし、豊かな人間性と社会の変化に主体的に対応できる生徒を育成し、地域とともに歩み、活気に満ちた学校づくりを目指す

2 本年度の重点目標
1 安全で安心な魅力ある学校づくりの実践 2 学習指導の充実 3 人権教育の徹底 4 生徒指導の充実 5 進路指導の充実 6 農業教育の充実 7 特別活動の充実

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目指す生徒像実現のために学校目標の周知を図るとともに、教育活動の着実な実践による活性化を図る。	学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知を図る。	・全職員が共通認識のもと教育目標に向けて実践する。 ・保護者、生徒の学校教育目標認知度(67.5%未満)を生徒・保護者75%以上にする。	・職員朝会・職員会議、研修等で常時啓発する。 ・学校HPの掲載や生徒総会、育友会総会、広報誌、学校行事等を通じて認知を高める。	A	・教育目標の認知度は前年に比べ0.1ポイント上昇した。 ・学校魅力化に向けた発信としては広報活動や教育活動wを積極的に配信できた。地域から関心の声を聴く機会が増えたことから認知度は上っている。
		社会で生き抜く力を持った生徒を育成する。併せて、生徒の自己肯定感を高める。	・基本的生活習慣を身に付け夢の実現に向かって、挑戦する生徒を育成する。 ・本校における通級指導を充実させ、生徒・保護者が理解し実践力を高め、前年度67.5%未満から75%以上にする。 ・生徒が自覚と誇りを持ち、学校内外の活動に積極的に参加する(前年度の65%から75%以上にする。	・積極的な研修の参加や自己研鑽に取り組み、授業力・指導力を高める。 ・通級指導に関する職員研修等とおして全職員への周知と共通認識を図る。 ・生徒が主体的で対話的な授業の機会を設ける。	A	・朝読書の実施は落ち着いて授業をスタートさせることに繋がっている。 ・通級による指導は生徒の所感や教師の連携・協力体制も高まった。進学合格や就職内定に繋がった。しかし、生徒・保護者の認知度や理解度は低い。 ・学習活動においては、生徒が主体的対話的な学習の機会が多く授業で実践している。 ・生徒の学校内外の活動に積極的に参加については、約73%であった。
	校長を中心とした指導体制のもと学校教育目標を実現する。	学校教育目標実現に向けた職員の意思統一と組織の活性化を図るとともに、業務改善、働き方改革を推進する。	・職員研修の充実や、各部の連携推進及び学科間との協力体制を促進する。 ・職員が、効果的な業務改善の工夫に取り組み実感できる。前年度の87.5%から92.5%以上にする。	・生徒理解に係る職員研修を充実させる(学期に1～2回)。 ・毎週水曜日を18時までの完全退庁を実現する等、職場の超過勤務80時間以上の職員と面談し、改善の手立ての見通しと目標を設定する。	B	・職員研修、生徒理解や特別支援教育推進委員会の開催、関係者による教科連絡会等により、情報の共有を図り、継続的かつ効果的な支援体制により、生徒へのスムーズな支援ができた。 ・ICT機器を活用した業務の効率化を推進した。12月末時

			・新入生充足率が前年度を上回る魅力ある取り組みを行う。	・生徒の夢の実現を達成させる為の指導体制を強化する。		点で年間超過勤務時間の職員1人当たりの平均時間は26時間(前年1月まで26時間)である。職員の業務改善に積極的に働きかけているが、農場管理上で困難な状況もある。全職員が意識をもち取り組んできた。
		学校情報を分かりやすい内容で定期的に発信する。	・「すぐー」配信や、ホームページ掲載情報をタイムリーに更新する。(特に、新着情報)	・「すぐー」の積極的な活用や、ホームページの掲載システムを職員に周知し、各行事の情報発信を学科毎、タイムリーに更新する。	A	・「すぐー」の活用は、保護者・職員への緊急連絡や各種行事の事前連絡等、旬な情報を混乱なく迅速に伝達することができた。
学力向上	生徒一人ひとりを理解し、授業の工夫・改善と個別指導を徹底する。(学びのUD化)	生徒の学習意欲が高まり、もっと知りたくなる授業を展開する。	・生徒が「わかる・できる・もっと知りたい」を実感する授業を展開する。 ・学びのUD化に努め、授業実施者は、ICTを活用した効果的な授業展開ができる。	・教育環境の工夫や、ルールの明確化、視覚的支援の充実等を図る。 ・ICT機器に関する職員研修を充実させ、授業でのICT機器活用率を高める。	A	・ICT支援員に機器の使い方等を学ぶ教職員が多くいた。また、ICT機器を活用した授業も多くなり、他校のICT機器を活用した研究授業や公開授業を参考に教師一人ひとりが自己研鑽に努めた。
		習熟度に合わせて授業を展開し、わかる喜びを感じる授業を実践する。	・習熟度別に授業内容を組立て「基礎学力」および「生きる力」を身につけさせる。	・欠点保持者及び希望する生徒等に対し、学びなおしを行う場を定期考査前に設定する。	A	・学年の先生方を中心に丁寧な指導を行った。 ・授業において、中学校学習内容について学びなおしを行う場面の時間を増やし、基礎基本の定着に努めた。
	教職員と生徒が一体となった授業(公開授業の実施、及びグループ学習の導入)を実施する。	生徒の興味関心を引き付ける授業の展開を行う。	・学科・教科別に研究授業(アクティブラーニングを重視した授業ICTを活用し、かつUD化を意識した授業の展開)による資質向上を図る。 ・授業の公開による教職員の授業力及び探究心の向上を図る。	・年間をととして統一したテーマをもとに各学科、教科ごとに研究授業を実施し、授業改善に取り組む。 ・教職員相互の学び合い期間を設定し、授業見学と授業評価を実施しスキルアップに繋げる。 ・公開授業週間を行い、外部からの見学者に率直な意見を求め、授業改善に取り組む。	A B	・「学びのUD化」、「ICT活用」をテーマに3名の先生方が研究授業を行った。合評会を各教科で行い、積極的な授業改善ができた。 ・1回以上の研究授業参観を呼びかけ、教職員相互の学び合い期間を設定した。公開授業週間では、本校保護者の多くの参加があった。

キャリア教育 (進路指導)	キャリア教育の充実	進路意識の高揚 体験活動の充実 進路情報の提供	・農業経営者育成を主とした職業意識の高揚	・先進農家視察や現場実習を複数回実施する。 ・進路ガイダンス等を年1回以上実施する。 ・オンラインも活用した進路情報の閲覧環境を改善する。	B	・先進農家視察や現場実習、インターンシップは予定通り実施できた。 ・進路ガイダンス等は年1回以上実施した。 ・進路関係だけでなく、農場におけるオンライン学習は通信環境の整備に伴い、活用の充実が図られた。
	就職指導の充実	職業意識の高揚 就職内定率の向上 早期離職防止	・キャリアサポーターの活用 ・希望就職内定率100% ・早期離職ゼロを目指す。	・進路適性検査を年1回以上実施する。 ・キャリアサポーターと面談を実施する。 ・ガイダンスや内定者指導を実施する。 ・企業の情報収集を行う。 ・配慮を要する生徒の支援におけるハローワークと連携する。	A	・進路適性検査は年1回実施した。 ・キャリアサポーターが就職希望者全員との面談を実施した。 ・各学年が1回以上ガイダンスに参加した。内定者指導は個別に行い、書類作成の支援等も行った。 ・企業の情報収集やハローワークとの連携は何度も行い、配慮を有する生徒にはジョブカフェによる面談も実施した。
	進学指導の充実	多様な進路希望実現に向けた支援体制の充実	・大学志望者の早期の把握と指導の開始 ・農業大学校進学10名以上を目指す。	・進路希望調査を年2回実施する。 ・大学志望者の主事による面談の実施と、所属学科と連携した指導の早期に開始する。 ・農業大学校説明会や指導を早期に開始する。	A	・希望調査は4月と11月に実施した。 ・大学志望者は、試験内容について主事が本人と確認を行い、国立大学希望者の指導は学科主導で早期から実施していただいた。 ・農業大学校には13名が希望し、全員が合格した。
生徒指導	豊かな心を育む指導の実践に取り組む。	生徒会、農業クラブを中心とした自主的活動による活性化を図る。	・生徒会、農業クラブを中心とした生徒の自主活動や部活動、ボランティア・各種委員会活動の促進を図る。	・生徒企画の各種行事や、委員会活動をおとした自治活動力の育成を図る。 ・ボランティア活動への参加を推進し、社会に貢献する心を育てる。 ・部活動の精選及び活性化に努める。	A	・菊農フェスタ等の行事がかなり充実してきており、魅力発信の場となった。 ・ボランティア活動にも多く参加できた。 ・陸上部、太鼓部、馬術部、弓道部などが活躍した。
		農業教育における動植物の育成管理を通して豊かな心の醸成と中途退学者の減少を図る。	・仲間と協力し、動植物の育成管理を通して責任感を育成すると共に、他者や周囲に配慮ができる心の醸成を図る。	・仲間と協力して作業をすることで責任と周囲への思いやりの心を育てる。 ・動植物との触れ合いを通して、命を大切にすると、互いに	A	・多くの生徒が農業実習に真摯に取り組む、仲間との協働や動植物の管理を通して命の大切さや互いを認め思いやる心を育てていた。 ・本校に入学して（

				協力し尊重する心を育成する。 ・生徒の満足度90%以上にする。		させて)良かったと答えた生徒、保護者はいずれも3.1を超えており満足度の高さがうかがえる。授業への興味関心度も生徒、保護者共に向上している。
	規範意識を育てると共に安全教育の徹底に取り組む。	基本的生活習慣の確立と規則やマナーを遵守する意識を高める。	・気持ち良い挨拶、制服の着こなし、時間を守る、貴重品の自己管理等、社会人となるための基礎基本を徹底指導する。	・登校指導での挨拶・時間厳守・身だしなみに関する指導を通して生徒の規範意識を高める。 ・身だしなみ(服装・頭髪)については、社会情勢に応じた指導体制を整える等、全職員で統一した共通認識を持つ。 ・貴重品袋を活用した盗難防止に努めると共に、貴重品の自己管理の徹底を啓発する。 ・生徒、保護者向けのSNS教育を実施し、トラブルの未然防止に取り組む。	B	・多くの生徒が生活の規律を守り、基本的生活習慣が身についていると答えた生徒は0.1上昇の3.2であったがクラスによって差が大きい。 ・防寒着、頭髪、服装等社会情勢に応じた指導体制に課題があり、職員が共通認識を持って指導しづらい状況になっている。 ・学校内での盗難は数件あり、警察と連携し抑止力の強化に努めた。 ・生徒向けにSNS教育を実施した。
		交通事故や犯罪等に遭わないために意識の高揚を図る。	・交通ルールの遵守や交通事故防止等の安全教育指導を徹底する。	・全職員による登校指導を各学期に1回実施し、交通安全意識を高める。 ・通学方法別での交通安全指導、外部講師による交通講話を通して交通安全に関する知識と技術の向上を図り、交通事故防止につなげる。 ・ヘルメット着用を義務化する。	B	・年度当初の通学方法別集会、交通安全教育LHR、交通安全意識向上を図ったが、軽微な事故が多く見られた。 ・自転車通学生のヘルメット着用を義務化した、着用率は20～40%と低い水準である。
人権教育の推進	豊かな人権感覚をもつ生徒の育成に取り組む。	相手の立場や心情を理解できる生徒の育成を図る。	・人権感覚を高め、心豊かな生徒を育成する。	学期に1回の人権LHRをはじめ様々な授業を通して人権感覚を育む。 ・人権講話、人権集会などから人権の大切さを伝える。	A	・学期に1回人権LHRを実施することができた。 ・人権集会ではスライドを使って、人権委員会によるメッセージを伝えることができた。 ・人権子ども集会を全校生徒で視聴し、様々な差別について学ぶ機会を持つことで人権感覚を高めることができた。
		職員の人権感覚を豊か	・毎学期に配慮を要する生徒等	・人権教育推進委員会を学期に1回		・年度当初の職員会議での啓発や生

		にするための研修を実施する。	に関する情報の共有や、研修を実施することで生徒に対する人権感覚を磨く。	行い、共通認識と共通実践を図る。 ・年間を通して2回の生徒理解研修を実施し、全職員で課題を抱える生徒の状況を把握し、共通理解を図る。	A	徒理解研修をはじめ、研修を適宜行うことで生徒の特性や生活背景を全職員で共有し生徒の理解を深め、生徒の理解を大切に指導ができるように努めた。 ・全職員による「レポート研修」を今年度も3月に実施予定である。
	命を大切に する心の 育成に 取り組む。	専門教育を 通して命を 大切にす る心の育 成に取 り組む。	・自分や他者の命を大切に すること のできる 生徒を 育てる。 本校の 人権教 育が相 手の立 場に立 つ生徒 の育成 に繋が っていると 実感する 生徒を 80%以 上にする。	・人権委員会を 中心に「い じめ撲 滅宣言」 の読み上 げクラス 掲示を行 う等、感 謝の心と 他者を認 める心 を意 識させる。	A	・昨年度から人権委員会の活性化を図るために2か月に1回人権委員会を実施し人権について深く学ぶ機会を設けている。人権委員会への研修を行うことで、そこからクラスへの啓発活動へとつなぐことができた。
いじめの防止等	命を大切に する、い じめをし ない、い じめの防 止に取 り組む 生徒の 育成に 取り組 む。	自他の生命 を尊重し 自尊感情 の確立を 図る。	・他者を思い やる心の 醸成だけ ではなく、 自己肯定 感を高め ることが できる生 徒を育て る。 ・本校はい じめの防 止をはじ め人権教 育の姿勢 を基本に 生徒への 対応が行 われている と実感す る生徒を 、80%以 上にする。	・LHRや日頃 の授業・実 習の中で 命を育て 、命をいた だくこと で生かされ ているこ とを学ぶ。 ・特に専門 教育を通 して他者 を思いや る心、協 働する心 を育成す る。	A	・各学科の学 習や実習 を通して 専門性を 高めると ともに、 命の大切 さを学ん でいる。さ らに自己 肯定感を 高める教 育活動を 目指した い。 ・いじめは 数件確認 している が、先生 方の早期 対応の成 果が表れ ており、 重大事態 は発生し ていない。 今後も丁 寧な対応 、早期の 対応を心 掛けたい。
		いじめ防止 に積極的 に取り組 む生徒を 育成する。	・いじめ未然 防止や早 期発見、 SNS等の トラブル 防止に努 める。	・LHR等で 人権問題 を取り上 げ、いじ めや差別 をなくす 生徒の育 成と正しい 言動がで きる生徒 の指導を 行う。 ・面談、ス クールサ インの活 用、心の アンケート で生徒の 日頃の悩 みを把握 し、いじ めの未然 防止、早 期の発見 に努める。		・各学期アン ケートに よる実態 把握およ び個人面 談を実施 し、いじ めの未然 防止、早 期発見・ 対応につ ながって いる。 ・担当組織 で情報共 有を図る ことで組 織的な対 応につな がっている。 それが早 期解決に つながり 重大事態 は発生し ていない。
地域連携 (CS)	育友会活 動との連 携に取 り組む。	円滑な学校 運営のた めに保護 者や地域 への情報 提供や発 信をする。	・保護者へ学 校行事や 学習の様 子等の情 報提供を 行い、本 校の教育 活動へ理 解と協力 を得るこ とができ るように 努める。	・年2回の育 友会会報 の作成に 協力し、 本校のPR に努める。 ・HPや「す ぐーる」 を活用し て、育友 会活動や 学校行事 の連絡と 周知に努 める。	A	・会報を2回 発行する ことがで きた。 ・写真を多 く用いる ことで、 各種行事 や育友会 活動につ いて具体 的に情報 を提供す ることが できた。 ・ホームペ ージを

						活用して、学校行事や育友会活動の様子を広く発信した。
		育友会活動の活性化に努める。	・保護者の学校行事への参加数が増えるように努める。 ・必要に応じて規約の見直しや組織改編等を検討して、効率的で有意義な育友会活動に取り組む。	・保護者に行事等の連絡を早めに行って、学校と協働関係を築けるように努める。 ・育友会の仕事内容を分担して、参加しやすい活動ができるように努める。	B	・「すぐーる」を活用して学校行事や育友会活動に関する連絡や募集などの情報提供を広く行うことができた。 ・育友会総会を含め、保護者の学校行事への参加率の向上が課題である。
	学校運営協議会を通して地域と連携できる体制制作りに努める。	自主的に学ぶ姿勢を持ち、自分で考えて行動できる生徒の育成に努める。	・ボランティア活動などの地域の活動をとおして、地域住民とコミュニケーションを深める。 ・学校運営協議会の充実に向けて取り組む。	・地域の美化作業等に積極的に参加する。 ・学校行事や農産物販売に関して、ホームページや広報誌等で情報を発信し、地域の方々に本校の教育活動を理解していただくように努める。 ・学校運営協議会委員の方々へ学校行事の案内を積極的に行って、協力体制の強化に努める。	A	・関係機関から意見やアドバイスをいただき、学校教育に対する地域との連携を深めることができた。 ・菊農フェスタでは、地域の方々を始め多くの来場者があり、ファッションショー、農産物や食品加工品の販売及び体験コーナーも大盛況であった。 ・1日福祉体験（介護施設、保育園等） ・まんまキッズスクール、水あかりの製作、献血、菊池市域学連携事業での熊本県立大学・泗水西小田植えボランティアなど、多くの活動に参加した。
専門教育	地域と連携した農業教育の推進に取り組む。	スマート農業教育や持続可能な農業等の学びを通して、地域と連携した農業教育の推進に取り組み、将来の地域農業の担い手を育成する。	・農業経営者や外部講師等を活用して、スマート農業教育や持続可能な農業等の研修及び視察を各学科3回以上実施する。	・学科と連携しながら農業部が企画立案を行い、研修会や講演会を学期1回以上実施する。	B	・KDSと連携したスマート農業講習会や農業経営者育成研修会、火の国の翼（愛知県高校生交流）等、様々な企画により、就農教育を展開することができた。 ・校内外の講習会や発表会に多くの生徒が参加し、先進地視察研修も全農業学科が実施できた。（3回以上実施済）
		農業経営者育成高等学校として、研修寮や農業実習により、自信と誇りを持つた農業経営者と関連産業従事者を	・火の国の翼派遣事業及び農業経営者育成研修会に5人以上参加する。 ・蒼生会をはじめ優秀な農業経営者との意見交換会を2回以上実施する。	・学科及び担任と連携し、農業関係の進路希望者へ斡旋と進路相談を実施する。 ・蒼生会員等と相談し、講師選定や情報交換会の企画を行う。	A	・火の国の翼派遣事業に2人参加、農業経営者育成研修会に10人参加、愛知県との交流学习が充実した。 ・蒼生会（同窓会）等、優秀な農業経営者との意見交換会を2回以上実施、座

		育成する。				談会では将来の就農予定者15人が参加した。
環境教育	環境の保全活動や環境改善に積極的に取り組む。	学校版環境ISOに取り組みと共に農業教育を通して環境整備に意欲的に取り組む態度を育成する。	・環境にやさしい農業教育の実践を目指して、環境保全や環境問題への関心を高め意識的に取り組む態度を育てる。	・学校版ISOの認定校として、校内外のクリーン活動を充実させる。 ・菊池市管内(公的機関等)に花いっぱい運動を展開する。	A	・学校版ISOの認定校として、毎日の清掃活動に積極的に取り組んだ。 ・学校の敷地内や地域(主に管内の公的機関等)を含めて花いっぱい運動に全学科で取り組んだ。また、クリスマスツリー制作の講習会を保護者や地域の人々を対象に実施した。
		美しい学校づくりをテーマに環境美化活動に取り組む。	・環境美化活動を実践と美しい学習環境の中で豊かな感性を育む。	・美化委員会を中心に校内美化活動を年10回程度行う。 ・ゴミの分別をはじめ環境に配慮できる生徒を育成する。	A	・美化委員会を中心に、定期的に校内の廊下をモップで清掃する美化活動を実施した。 ・ごみの分別を進め、環境に配慮する意識を持った生徒を育成中である。